

長期性の価値観

1)哲学文化政策

1-1 軍事性の高まり

「軍事力を持って外界に圧力をかけ自己の意図する願望と実現の施策を投じる事はよろしくない。」という同一性が見解が産まれる。こうした万人集約性の理念に対し実際は軍事力により外界を威圧し拡大路線を求める性格が現れる。これへの対応策として軍事力を増強させ脅威への有効な手段を整備する反応が産まれる。

理念：軍事力を持って外界を従属させることはよろしくない。

現況：軍事力に依存し、外界を威圧し拡大路線を求める性格の出現。

方法：脅威への対応策を強化する。

1-2 健全な感性と反応

直接的な自然反応のみならず、同一性の理念と異なる原因の解明と同一理念に及ぶ性格を作る施策の促進を併せ長期的な生態の健全と永続を求める創造体系を産む。

- ・同一性の理念と異なる原因の解明、
- ・同一理念に及ぶ性格を作る施策の促進

1-3 施策の総合性

悪しき性質と同化せず自己を律する理想形を引き出し現況に対面し直接的な対処策を起こすと共にあまりに歪な悪性に同調しないあるべき理想形の見解を導出し理想性に及ぶ施策の強化促進を果たす創造体系を産む。物理受動的な体質に陥らぬ長期的な適正軌道を望む根拠性が存続する。・理想形の見解を導出

「軍事性の施策と哲学文化性の施策」という両極に対し間に入る「産業経済、政治行政、教育金融、自然環境等」という施策が備えられる。

狭義の哲学文化					
軍事	自然 環境	産業 経済	政治 行政	教育 金融	外交

静的 動的		狭義の哲学文化性 (根本性の尺度)
各 種 施 策	軍事	
	自然環境	
	産業経済	
	政治行政	
	外交	

1-4 根本尺度の導出

軍事性による拡大志向と類似する歪な産業経済性の施策も現れる。これらに共通する性格は何か。人間の根源性や根幹性へ思慮を深め、「感性と観念と精神と身体の相関と習慣」という観点から人間の健全な姿を問い起こし、健全性と不健全性を見分ける根本的な基準性の導出と個別特定現象に直面し根本尺度から各対象の本質性の認識と評価に及ぶ。一貫性を有する基準と運用の法則が進み変らぬ良質を遂げる原理が稼働する。哲学文化性の施策が現れる。

1-5 根本性と適用

国家の立場では戦争反対と主張しながら産業経済性や政治行政面において軍事性による威圧と外界の従属策を図る二重人格が顕在化する。頭と体の分断と精神と感性の歪性が明瞭化する。根本律の狂った性格の観測と評価の客観認識を生む。根本性の観点が希薄化し歪な人間性を産む因果が確認される。病理性への対処策が投げられる。

1-6 纏め

軍事性の直接的な対処と共に哲学文化施策を合わせ、更に間の観点を引き出し創造力の包括体系を生む。人間の根本性へ思慮を深め根本的な観点から全体像を生む。根本性の一貫した対象性と観測評価性に及ばせる創造基調を生む。時々の内外環境に直面し最良的な施策を組み合わせ構成し長期性の理念を遂げる創造原理が稼働する。

2)長期インフラ性

2-1 健全な自由主義や良好な伝統文化

堂々とした作為から外れ妙な言い訳や自己都合の良い立ち居振る舞いは良好な感性から外れた心象を増す。堂々とした正攻法を意識し自他との公平な分配性を求める性格が産まれる。

「健全な自由主義」や「良好な伝統文化」という概念の中枢を生む。

2-2 病んだ保守性と破壊的自由

病んだ保守性を広げる現象や破壊的な自由を増大させる現象は、肥満や不健全という心象を増す。物的力と構造的に依存し肥満な手法を持って自存性を遂げる体質が強まる事のなき公平公正な自由を求める習慣を存続させる感性が働く。

2-3 根本性の劣化

下限的な躰や基準を壊す現象には神経質な感度が起こる。土台性の悪化や根本性の崩れに及ばぬ基準性の上に建設的なプラス性のエネルギー循環が広がる。根本性の壊れた肥満な性質を放置せず過剰な力を取り上げる対策が遅れると歪な基礎と常識を広げる。慢性化した盗み症や詐欺や略奪の体質と領域性を深め広げる事への対処策と予防性の施策が産まれる。

2-4 固有技術と特定領域と根本性の相関

個別施策や固有性の技術力、或いは特定領域観は根源且つ根幹の適正の上に良き技術性や領域性となり開花する。根本的なインフラ性が狂うと負の主導と下落し各種固有性の技術や特定領域の良好な発展を妨げる。生態の芯となる要素の健全性から全体性の概念が産まれ個別特定の性格付けに回る。

2-5 長期インフラの要件

権力や財力や知力を利己的な力に用いる程度が強まると身体と頭脳の乖離した歪な感性と人間性と生態に及び、あつてはならぬ現象が突如として発生する傾向が映る。根幹性を担う長期インフラに最も求められる要素の見解が望まれる。

2-6 伝統文化観

伝統文化なる概念の見解と言ひ換えられる。これを吟味する変わりづらいフレームとして「生態概念」や「主体性像」を確立し中味の配置と相関を与え精査した具象的な認識が産み出される。

3)思想・世界観・伝統文化

3-1 人間平等

今日、「男女平等」が叫ばれる。人間平等の理性を根源に備え不平不満と矛盾の感性が生じ力と活用の適正を図り良好な感性の出現と持続的な関係を遂げる平等と成長と永続の理念と実現の体系を産む。

3-2 平等と成長と永続

平等理念も単純な均等割りの分配に偏した解釈に留まらず、良好な生の導出を含め頑張れば相応するリターンの適正を持って活力や成長と持続的循環を遂げる。真に納得と共感を模索し確かな体系を纏め万人的な対象を想定し完成度の高まる思想と世界観が形成される。

3-3 良い事・悪い事・両面の因果

「あつてはならぬ事」という解釈の狭まる下限的な基準性の認識を生むと共に、その面を満たしながら「あつて良い事」という積極的な創造へ力が向けられる。後者の側もあまりに無制限的な創造の弊害の観点を鑑みあつて良い事とならぬ事との因果の観点を取り入れ適正な基準を確保し平等と成長と永続性へ及ぶ。人間と生態の根本的な原理という体系性を生む。

3-4 感覚と感性と観念、根源根幹と産出(部分と全体)及ぶ習慣

感覚的因果と感性的因果という両極について適正な調和形成の在り方を観念と導出させ自他との同一基準の鮮明性を図り個別特定現象を作る法則が進む。抽象概念に留まらず個別具体の現象を体験し直接間接の因果を問い準抽象の観点を浮かべ根源性へ思慮を深め全体像を律する根幹性の導出と体系や総枠に反映させ「根源且つ根幹と産出性(部分と全体)及び習慣」をもって全容的集約概念が産出される。成熟を宿す人間性と創造体系に発展する。

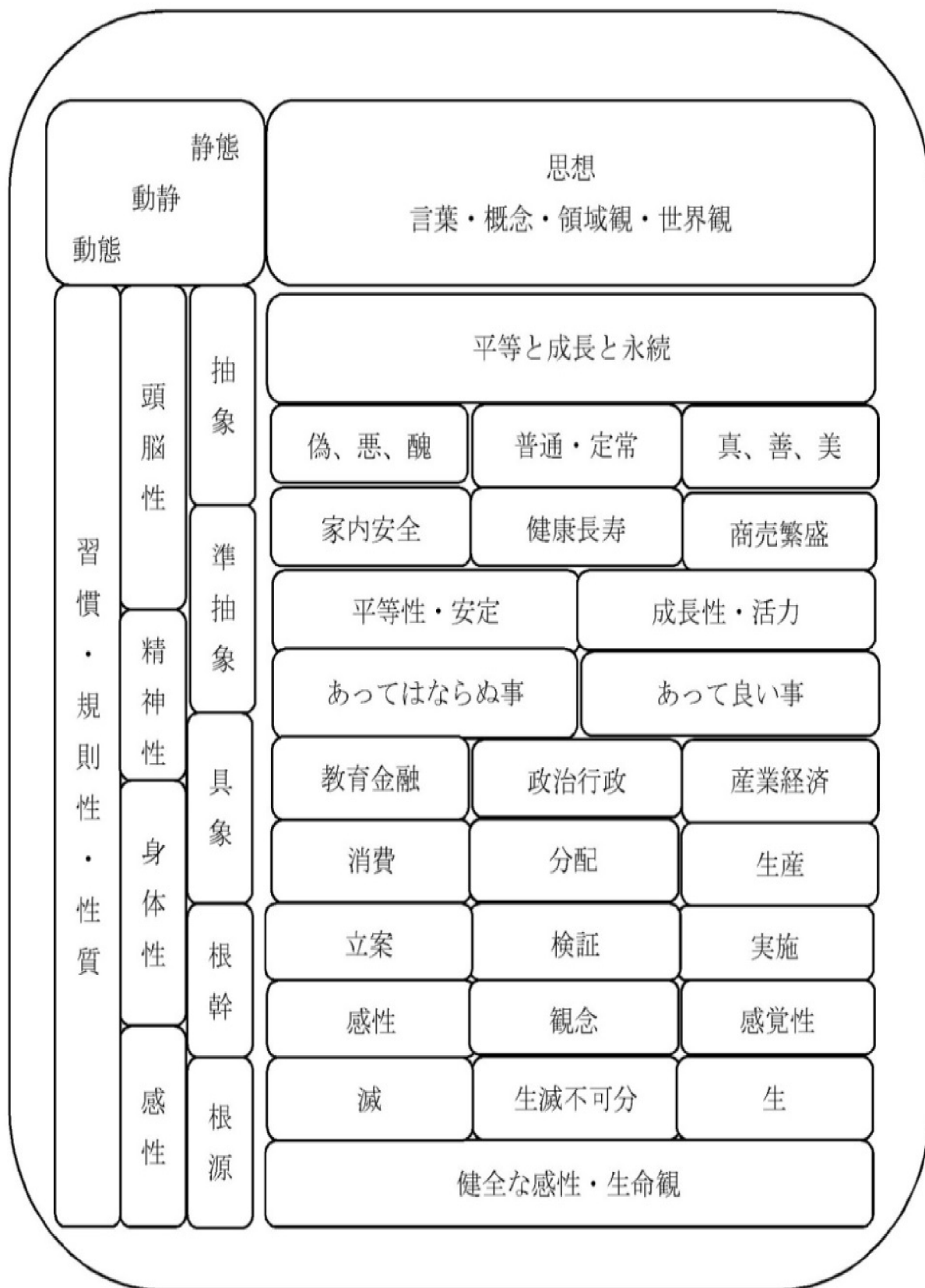
3-5 思想と世界観、伝統文化

良くしたいという思想が続き良好な世界観に変換される。多様な要素性を勘案し優れた世界観を生む。多くの良好な先人の貢献への感謝と共に良好な意思や性格を継承し高次の創造に発展する。中枢の精神や感性は変わりなく形の向上を果たし伝統文化を存続させる。

3-5-1 文章記述

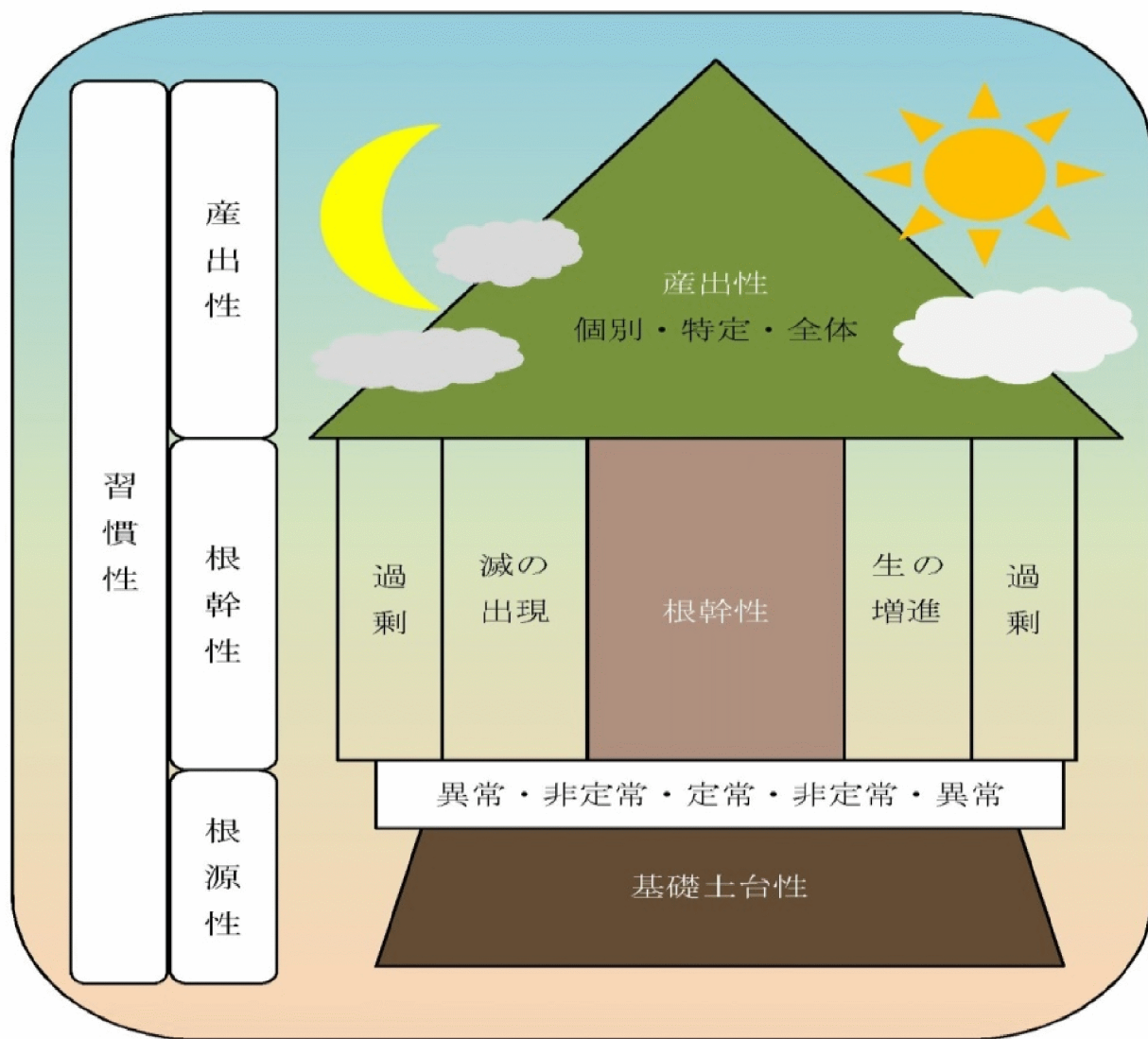
観点の導出と文脈が産まれる。並列的な記述に基盤的フレームを起こし個々の概念と配置の要約と集約に及び立体感を生む集約図に至る。動的な活動性を加え理解や認識の容易性に連ねる工夫が成される。大量の文字を読み解く負荷を与えぬ作為を生む。

3-5-2 立体的概念形成



3-5-3 臨場感の向上

更に臨場感の高まる様に身近にある樹木に模し生きた質感に到達する。頭脳性に偏った表現に留まらず身体と感性に伝わり納得と共感が高まり稼働に及ぶ。静的質感から動態を増し動静の適正を生む。



3-5-4 同調・解明・牽引・永続

自然との同一性を見つけ自己と自然を良く解明し自然を作る操作に回る。同調と解明と牽引と永続へ連なる。頭の理解や認識に留まらず体と感性を通し確かな認識と創造を主導する人間性を生む。

感性	観念	身体
徳育性	知育性	体育性
人間性	社会性	自然観
心理	言葉、概念	生物化学、物理
感性の因果	言葉や概念の因果	身体性の因果

頭過多と身体性過多という弊害を予防する分化と統合の適度性を遂げる概念導出に及び健全な感性と身体の相関の活動を実現する。